



## 報告

- お茶大から開く世界への窓～2018年度サマープログラム開催記 (2018年7月9日～22日)
- 株式会社ブリヂストン見学会 (8月7日、9月5日)
- NIMSインターンシップ実施 (8月20日～9月28日)
- 学部授業「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演 (4回・5回・6回)
- 前期授業を終えて (IGL関連)
- 国際日本学シンポジウム開催 (7月7日・8日)

## 予告

- 【予告】国際日本学コンソーシアムの開催 (12月10日・11日)

## お茶大から開く世界への窓～2018年度サマープログラム開催記 (2018年7月9日～22日)

お茶大「サマープログラム」は、海外協定校生を広く受け入れ、お茶大生とともに学んでもらう、夏季集中プログラムです。例年20国籍以上の学生が参加、キャンパスが一気にグローバル化して、「サマプロの夏が来た!」という雰囲気になります。

今年度は、7月9日(月)～22日(日)の14日間、サマープログラムが開催されました。全コース併せて海外協定校生89名(12カ国20校)、お茶大生のべ79名と、今年も多数の参加がありました。お茶大長期交換留学生(イギリス)も1名参加しました。

参加学生は、日本語コースと文化・社会コース(英語)、また後者はジェンダー、食文化、自然科学のサブコースに分かれて、フィールドスタディを含むバラエティ豊かな授業を満喫しました。多国籍メンバーでチームを組んでの「プロジェクト・ワーク」では、初めての多文化協働作業経験を通して、「〇国人はこうだ」というステレオタイプのイメージを払拭し、同じ若者である「個人同士」として付き合う大切さを、痛感した参加者も多かったようです。

授業と並んで重要な国際交流の機会である課外イベントでも、和菓子作り体験では、東京製菓学校の先生方のマイスター技の披露に歓声を上げたり、浴衣着付け体験では、着物姿も美しい民族衣裳文化普及協会の先生方にご指導いただいたりと、素晴らしい時間を過ごすことができました。

今年度はまた、サマープログラムの一環としてグローバルリーダーシップ研究所主催で、アメリカの大学の先生方による「リーダーシップ・ワークショップ」および講演会3件を開催することができました。この7月に新しく協定校になった、ミルズ・カレッジ(アメリカ)のダイアン・ケトル先生による「リーダーシップ・ワークショップ」では、3時間にわたって文化・社会コースの学生をご指導いただきました。従来の組織運営にありがちな、何でも規則だけで物事を進める“technical solution”ではなく、ケース・バイ・ケースで当事者の事情をよく聞いて事態を理解し

ながら解決していく“adaptive solution”を提唱されるその内容は、学ぶところが多いものでした。特に今後の女性リーダーのあるべき姿として、本研究所でも検討していくべきでしょう。ケトル先生には講演会もご担当いただきました。

講演会はそのほか、カリフォルニア大学バークレー校の羽生淳子先生、ヴァッサー大学の土屋浩美先生にご担当いただき、それぞれ、バークレー校の大学院教育に見る学際性やジェンダー意識、日本の少女漫画にみるジェンダー、について、貴重なお話をしていただきました。加えて、アントレプレナー育成講座の講演会もサマープログラムとタイアップいただき、カルティエ・ウーマンズ・イニシアチブ・アワード(CWIA)を受賞した女性起業家お二人のお話を伺いました。

かくして今年も充実のうちに、サマープログラムを終えることができました。ご助力いただいた各部署の皆様にも、深く感謝しております。

文責：細谷 葵(グローバルリーダーシップ研究所特任准教授、サマープログラム・コーディネーター)



文化イベントで和菓子作りに挑戦!

ケトル先生のリーダーシップ・ワークショップ



## 株式会社ブリヂストン見学会（8月7日、9月5日）

国立大学法人お茶の水女子大学と株式会社ブリヂストンは、女性リーダー育成に向けた**包括協定**を2017年から結んでいます。そのような関係から、本学が主催、株式会社ブリヂストンに協力を頂いて「ブリヂストン見学会」を2016年から開催しています。**2018年8月7日（火）には本学附属中学・高等学校と芝浦工業大学附属中学・高等学校の女子生徒、計11名を対象とした見学会を実施し、2018年9月5日（水）には本学の学部生・大学院生および芝浦工業大学の女子大学生を対象とした見学会を実施しました。**

女子中高生には**世界的な工学系企業の現場**に触れることで工学系分野に対する関心を高め、企業における**モノづくり**への理解をいっそう深めてもらうために開催し、女子大学生には**ものづくりの現場見学のみならず、女性社員との懇談会やインターンシップに関する説明など、今後のキャリア構築や進路**について考える機会として文理問わず参加できる形式で開催しました。なお、参加者呼びかけと運営には本学の理系女性教育開発共同機構、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の連携機関である芝浦工業大学に協力いただきました。

いずれの見学会においても**ブリヂストンTODAY館（タイヤとゴムの博物館）**の見学、**タイヤデザイン室と材料分析室**の見学、**技術系女性従業員との懇談会**を実施しており、女子大学生向けにのみ**インターンシップ制度**に関わる説明を追加しました。



女子中高生向け  
株式会社ブリヂストン技術センター見学会の様子



女子大学生向け  
株式会社ブリヂストン技術センター見学会の様子

女子中高生の参加者からは「普段話すことが出来ない職種の方々の仕事を見学したりお話しできたりととても良い体験になりました」、「普段見ることの出来ない会社の内部に入り雰囲気を感じることが出来ました。**理系・文系という分け方を意識していたけれど女性従業員の話を聞いて好きなことを基準**にして学ぶことを決めていきたいと思います」、「文理選択に迷っていたので貴重なお話を聞け、文理を決めるきっかけになりました」、「女性職員の方々とお話しして、ブリヂストン社が女性にとって非常に整備された会社であることを良く知ることが出来ました」などの感想が寄せられました。

女子大学生の参加者からは「働くということについて全く想像できていなかったため、実際に技術系の仕事をしている現場を見ることができ大変貴重な体験が出来ました」「**とても充実したものだ**だったので本当に満足です。ブリヂストンの方々はとても親切ですごく魅力的な会社に感じました」「**理系の研究職・技術職の職務内容**もとても分かりやすく興味を持ってました」といった感想が寄せられました。

文責：内藤 章江（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）、小濱 聖子（同 特任リサーチフェロー）

## NIMSインターンシップ実施（8月20日～9月28日）

本学の理系分野の学部生・大学院生を対象に、材料科学分野で**世界トップレベルの物質・材料研究機構（以下、NIMSと表記）へ夏期休業中の2～3週間程度**インターンシップ生として派遣し、研究開発の最先端を体感させる「NIMSインターンシップ」を実施しました。**4月に説明会**を開催してNIMSでのインターンシップを希望する学生を学内公募し、学内審査を経て派遣する学生を選出しました。インターンシップ生として採択された学生には、本学もしくはNIMSからインターンシップ期間中の**経費（宿泊費・交通費）**を支援しています。

これまで、2015年度に**11名**、2016年度に**9名**、2017年度に**5名**の学部生、大学院生をNIMSインターンシップ生として派遣しており、2018年度は学部生**2名**をインターンシップ生として派遣しました。インターンシップは夏休み中（8月～9月）の2～3週間としており、2名ともに無事インターンシ

ップを終えることができました。派遣学生からは「このインターンシップで、**大学とも企業とも異なる研究機構**という場で、どのように研究が進められているのか、短い期間でも垣間見ることができ、良い経験となった。また、実験を見てくださった**研究員の方とお話し**するという、普段の生活にはなかなかない機会を得られた。今回得た経験を、**卒業研究**ははじめこれからの研究生活や、**自分の将来**を考える際に生かしたいと思う」との感想を得ました。

NIMSインターンシップは世界トップレベルの研究と**グローバルコミュニケーション**を体験することができ、工学系研究に対する興味・関心を深め、知的好奇心を刺激されたようです。

文責：内藤 章江（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）



## 学部授業「お茶の水女子大学論」 ロールモデル講演（4回・5回・6回）

授業「お茶の水女子大学論」内で開催したロールモデル講演会第4回から第6回までの卒業生からのメッセージを一部紹介します。  
編集：大持 ほか（グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント）

私はカウンセリングについて学びたいと思い、1994年に生活科学部へ入学しました。大学院まで進みましたが、自分の進路は臨床家でも研究者でもないと感じるようになり、一般企業への就職を決め、市場調査業界に就職しました。

クライアントの多くは大手企業のマーケティング部門のご担当者で、その方たちと一緒に調査結果を読み解きながら商品開発や宣伝戦略などについて考えていくところに調査業務の面白さがありました。一方で、クライアント・協力会社との力関係や、慢性的な残業では苦労しました。

「仕事は面白い、だが、しんどい所もある」業界で、色々な悩みを持ち続けながらも約12年間勤めましたが、労働時間を改善するため、調査の経験を生かして現在の会社に転職しました。今は外資系のマーケティングサービス会社で、大手総合スーパーやドラッグストアの店頭購買データ（ID-POSデータ）の分析業務を担当しています。

私が仕事をする上で大切にしていることは、展開を先読みして準備しておくこと、双方向のコミュニケーション、そして周囲への感謝の気持ちを忘れないことです。これから就活する皆さんには、好き・やりたいという感覚を大事にして、自分の人生の時間をどんな風に使いたいかを考えつつ、職業選択をしてもらいたいと思います。色々な経験をして、自分が得意なことを見つけ、それを伸ばして強みにしていってください。

（1998年生活科学部・発臨卒/2000年同大学院修了）

私は、2001年に日本アイ・ビー・エム株式会社へ入社しました。最初は、「自らの手で何か新しいものを作りたい、生み出したい」という思いから、ITエンジニア（＝システムエンジニア）として就職しました。文系の私にとっては覚えることも多く、数々の試練もありましたが、資格を取得するなどの努力を積み重ね、乗り越えていきました。

その達成感やお客様からの感謝の言葉が励みとなり、夢であったグローバルな場へと進むことにしました。二年間のアメリカ留学でMBAを取得した後、中国・上海に二年間赴任して、オフショアビジネスの推進や、人材管理を担当しました。

帰国後は、コンサルタントとして、グローバルプロジェクトを幾つか行いました。この頃は、グローバル人材になるという中々できない経験もでき、自分になりたかった自分に一番近づけた時期でもありました。

そして、子育て期に突入したことを機に、人事へ異動しました。そして、今年からダイバーシティチームとして、グローバルカンファレンスの運営やLGBT+ Pride Monthの企画・運営なども手がけてきました。IBMは創業時から女性や黒人の採用（1911年）など、多様性を重視した取組をしてきました。それは、「多様性はイノベーションの源泉」だからです。

これまでのキャリアは、単に何かを待っていたわけではなく、自分で切り開いてきたからこそ作り上げられたものです。皆さんには、社会人にとって重要な英語やパソコンのスキルを身につけながら、今やりたいことを思いっきり実施して学生時代を有意義に過ごしてほしいと思います。

（2001年文教育学部・人社卒）

第4回（6月27日）  
カタリナ マーケティング ジャパン株式会社  
立石佳子さん



第5回（7月4日）  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
人事 ダイバーシティ推進  
伊奈恵美子さん



第6回（7月25日）  
株式会社ブリヂストン  
事業開発管理部 部長  
（講演時の所属：  
CSR・環境戦略企画推進部）  
青山美奈さん



写真1：ロールモデル講演4（6月27日）の様子  
写真2：ロールモデル講演5（7月4日）の様子  
写真3：ロールモデル講演6（7月25日）の様子

小学校高学年から理系志望だった私は、大学時代からの車好きが高じて自動車関連企業の研究者の道を志し、当社に入社しました。就職先を選ぶ時は、事業内容や商品に興味を持てること、企業理念に共感できることが重要だと思います。

学生のうちから身につけておくべきこととして、論理的思考力、対人コミュニケーション能力、課題解決力が挙げられます。また、グローバルコミュニケーションできる英語力は今後絶対に必要となります。単なる語学力ではなく、自分が発信したい内容を解りやすく伝える力が重要で、その場で相手が何を発信しようとしているのかを想像する力も求められます。

また、アルバイトなど外の世界で色々体験してください。OGの私から見て、お茶大生には『女性ならではの』の教育が受けられるなどの強みがある半面、「社会人としてのネット

ワークが狭い」、「生真面目で、経験の幅が狭い」などの弱みもあります。あらゆるところに向き、人脈を広げることで、人を知り、自分を知ってもらうことは、今後働いていく中で役立つのではないのでしょうか。ぜひ、みなさんは経験の幅やネットワークを若いうちから意識して広げていってください。

働き始めると、自分の時間の確保が難しくなります。自分の時間を確保するためには、譲れないものを明確にしつつも、一時期切り捨てるものは切り捨てる必要も出てくるでしょう。

私の入社当時は、結婚・妊娠・出産しても、「女性が働き続けること」自体が価値と考えられていました。しかし、今は、「働き続けること」の先に何を描いているかが自分の価値につながるのであり、自分の価値というのは、「働き続けること」自体ではなく、「社会に何を提供できるか」だと考えています。

（1989年理学部・化学卒/1991年同大学院修了）

• 「お茶の水女子大学論」(水9・10限)、及び「女性のキャリアと法制度」(水5・6限)

「お茶の水女子大学論」(水9・10限)は主に1年生が履修する科目で、2018年度は1-4年生合わせて約100名が受講しました。鹿住倫世先生(専修大学商学部教授、グローバルリーダーシップ研究所(IGL)研究協力員)、小林誠教授(本学基幹研究院教授、IGL所長)、大木直子(IGL特任講師)が担当しました。この授業は**キャリアデザインプログラムの基幹科目**の一つで、入学前の**マインドセットを自省し、自らのキャリアをデザインし、社会においてリーダーシップを発揮するための基礎**と位置づけられています。2018年度も**学長講演、お茶の水女子大学の歴史**や、**企業経営や起業に関する講義、卒業生(6名)のロールモデル講演、スペシャルレクチャー(秋篠宮妃紀子殿下)、公開講座「NHK大学セミナーin お茶の水女子大学(講師 本学OG 安部みちこアナウンサー)」**などを実施しました。また、受講生は6月30日(土)グローバル女性リーダー育成研究機構 グローバルリーダーシップ研究所・ジェンダー研究所が主催する国際シンポジウム「女性政治リーダーはいかにして『育つ』か?」にも参加し、政治分野における女性のリーダーシップについても学びました。様々な女性リーダーの話をお聴きすることで、受講生は、今後、どのようなキャリアを形成するか、そのためには課外活動やアルバイトも含めてこれからの大学生活でどんなことに取り組み、学ぶべきか、などについて深く考える機会を得ることができました。

同じくキャリアデザインプログラム基幹科目の「女性のキャリアと法制度」(水5・6限)は大木が担当しました。2018年度は1-4年生合わせて12名が受講しました。OECD(経済協力開発機構)が提案している**キー・コンピテンシー**(「双方向的活動」「自律的活動」「協働的活動」)のうち、「社会性」(「社会」と「自己」との関わり方に関するコンピテンシー。主体的に活動の意味を見出す力。所属する組織や社会の中で、規律を守り、義務を果たす力、権利を活用・保守する力、自ら貢献する場を求め取り組む力など) \*本学HP「キャリアデザインプログラムとは」より抜粋)を身につけることを目的としています。具体的には、**ジェンダーの視点から「働くこと」を考えると何が見えてくるのか、戦後の女性政策および女性の労働に関する法律や制度にはどのようなものがあるのか、自分が労働者としてどういう権利、義務を持っているのか**、などについて講義を行ないました。また、グループディスカッションや個人のプレゼンテーションを通じて、お互いの問題関心を受講者全員で共有し、「働き方」に関する最近のニュースや国際指標における日本の位置づけなどについても討論しました。受講生は、授業を通じて、「自分は今どのように働いているのか」「将来どのようなところで、どういう形で働きたいか」「自分の描くライフコースを辿るためにはどういった知識や経験が必要になるのか」などを自分なりに考えるきっかけを得ることができました。

文責: 大木 直子(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

• 「パーソナル・ブランディング」(火9・10限)

本講座では、①**内面: 自分の強みや可能性を知る**、②**外見: 自身の見た目は何を伝えているのかを知る**、③**伝え方: 態度や表情・話し方などによる違いについて、理論と実践を交えながら学びを深め、自身の「個」を磨きつつ、自分の強みや可能性を意識的かつ強力に伝達し、記憶に残してもらおう方法について教授しました。**受講生は22名であり、感想として「春までは自分に自信がなくて辛かったけれど、『内面を知る』で客観的に自分を見つめ直し、振り返って、長所と短所を書き出すことで**自分のPRポイントが出来て、前向きな気持ちになれました**」、「授業を受け始める前は自分に強みはあるのか、あるとすれば一体どのようなものなのか、ということがわからずに**自分に自信を持てずにいました**。しかし、授業の中で自分について知ることによって自分にしかない経験や個性、そして強みがあると知ることができました。また、そういった内面の話だけでなく外見についてのお話もあり、とても興味深かったです」などを得ました。講義に対する満足度も高く(とても満足91%、満足9%)、全員が本講義を「今後とても役に立つ」と回答し、講義を通じて**考え方や行動が変わった(91%)**学生が多数みられました。

文責: 内藤 章江(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



「お茶の水女子大学論」  
学長講演の様子(1)



「お茶の水女子大学論」  
学長講演の様子(2)



「NHK大学セミナーin お茶の水女子大学」のポスター



## 国際日本学シンポジウム開催（7月7日・8日）

2018年7月7日（土）・8日（日）に比較日本学教育研究部門が主催する**第20回国際日本学シンポジウム**が開催されました。

平成30（2018）年は、**明治維新（1868年）からちょうど150年**を迎える、節目の年です。本学の比較日本学教育研究部門においても、明治150年を振り返り、これまで各研究分野で進められてきた**明治日本の文化形成**に関する研究成果、および新視点や論点を共有するシンポジウムが企画されました。

テーマは「**変革と継承の明治文化—地域／都市からみた文化形成—**」でした。1日目のセッションⅠでは、「地域からみた文化形成」をテーマに、地元の音楽文化、洋学受容、明治時代の大名華族を対象に、地域における明治文化の形成を捉えることが試みられました。司会は本学の**難波知子准教授**が務めました。デンマークのコペンハーゲン大学から**マーガレット・メール氏**をお招きし、「**ローカル・ナショナル・グローバルの相互関係—四竜兄弟と仙台地域の音楽文化を中心に—**」と題したご講演をいただきました。また、**北原かな子氏**（青森中央学院大学）「**洋学受容と土族たち—津軽地方を中心に—**」、**寺尾美保氏**（東京大学〔院〕）「**大名華族としての島津家と鹿児島**」からもご発表いただき、会場からの質問も交えパネルディスカッションが行われ、充実した一日となりました。

2日目のセッションⅡでは、「都市からみた文化形成」をテーマに技術と生活、行政文化、都市祭礼、商店街の成立を通して、都市における明治文化の変革と継承が考察されました。

東京大学の**鈴木淳氏**に「**煙突と電柱の立ち並ぶ街—明治期東京の技術と生活—**」と題したご講演をいただき、

この日の司会も務めた本学の**湯川文彦氏**「**官僚からみた「都市」問題—明治前期の行政文化と都市—**」を始め、**平山昇氏**（九州産業大学）「**都市祭礼の近代史—博多松囃子を事例に—**」、**満園勇氏**（北海道大学）「**商店街の成立史からみた明治時代—店舗併用住宅に注目して—**」による力作揃いの発表が続き、パネルディスカッションでも白熱した議論が行われました。

両日とも多くの方にご参加いただき、濃密な2日間となりました。

文責：吉井 祥（グローバルリーダーシップ研究所 元アカデミック・アシスタント）



国際日本学シンポジウム  
ポスター



今年度の様子

## 【予告】国際日本学コンソーシアムの開催（12月10日・11日）

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、**国際的・学際的なジョイントゼミ**を行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。

**第13回**となる今回は「**いのち・自然・社会**」をテーマに据え、新たな日本学の確立を目指します。近年、虐待や災害などで、「いのち」について考えさせられることが多くあります。「いのち」とそれを取り巻く「自然」、そしてその中で人々が作り上げてきた「社会」について考えることは、人文学という学問の根幹をなす部分でもあります。これらのことから、「いのち」「自然」「社会」について多角的に考え直し、新たな**国際日本学のあり方**を考える機会にしたいと存じます。日本文学部会、日本文化部会、日本語学・日本語教育学部会に分かれ開催される予定です。

【会場】お茶の水女子大学文教育学部1号館第1会議室

【日程】12月10日（月）・11日（火）

【参加予定校】カレル大学（チェコ）、パリ・デイドロ大学（フランス）、国立台湾大学（台湾）、北京外国語大学（中国）、釜山大学校（韓国）、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）



昨年度の様子



今年度ポスター

【発行元】国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 人間文化創成科学研究科棟506室

Tel/Fax: 03(5978)5520

E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>